

## 『むべなるかな』

《発行》令和7年7月／大嶋・奥津嶋神社氏子総代

## 「水と人とをむすぶ めおと神の物語」

夫婦を祀る神社は多々ありますが、当神社ほど歴史が古く、また特殊な造りの神社は他に無いかも知れません。西暦131年創建。もとは別々の神社でしたが、遅くとも鎌倉時代以前にはすでに一緒に祀られていたようです。当社は本殿が二棟あり、向かって右側が奥津嶋神社、左が大嶋神社。二社は幣殿（へいでん）によって繋がっています。建物の大きさについて、女神を祀る奥津嶋神社は、意図してか男神である大嶋神社よりも小さめに造られています。ご神体が納められている内陣の位置も、夫神側が手前に、妻神側はやや低く奥まっています。

以上、大嶋奥津嶋神社社歴案内より

## 【夫婦神】 大嶋神社（御祭神：大国主命） 奥津嶋神社（御祭神：奥津島比売命）

奥津島比売命は「宗像三女神」の一柱「多紀理毘売命（たぎりひめのみこと）」の別名で、水辺の安全・交通安全・女性の守護などを司る女神様です。「多紀理毘売命」は琵琶湖に浮かぶ竹生島神社や沖島の奥津嶋神社の御祭神でもあります。この地がかつて琵琶湖に浮かぶ「島」であり、蒲生の地や京へ向かう水上交通の要所であったことを物語っています。

一方、大国主命は古代出雲の主神で国づくりを行われた神様です。国づくりのほか「縁結びの神」としても親しまれています。人との出会いや結びつきを大切にする神様です。

## 【夫婦神としての御神徳】

- ・水の神と国土の神の結びつきにより、私たちの生活全体をお守りいただける
- ・人との出会い、家族や人々の和、地域の平穏をお見守りいただける

一緒に祀られて1000年以上。夫婦の神様が仲良く並んでいらっしゃる姿は、まさに私たちが目指す家族の絆、地域の和を表しているようです。

## 【地域とつながる神社】

水辺の女神と国づくりの男神が結ばれたように、当神社は地域の皆様の暮らしと深く結ばれています。朝の散歩の途中に木陰で一休み、お仕事の安全を願って、ご夫婦の健康を祈って…どんな時でもお気軽にお立ち寄りください。

「めおと神」。今も変わらず、地域の皆様お一人おひとりの日々の暮らしに寄り添い、人と人とのつながりを結び続けています。毎日の暮らしの中で、ふと神社を思い出していただけたら。。。皆様のお参りが、神社にとって何よりの喜びです。

※注釈「宗像三女神」：宗像三女神とは、水辺や航海の守り神として古代より信仰されてきた三柱の女神（多紀理毘売命・市寸島比売命・田心姫命）を指します。

## 8月の予定（行事案内）

- ・8月4日（月曜日） 百々神社 月例祭 午前10時より祈祷受付開始
- ・8月24日（日曜日） 古文書（大般若経等）虫干し及び清掃 本社9時より

